

## 高麗神社氏子会について

氏神社は、自らが居住する地域の氏神様をお祀りする神社であり、この神社の鎮座する周辺の一定地域に居住する人々を氏子と言います。高麗神社の氏子区域は、大宮・高岡・新井・栗原南部・栗原北部・楡木・本所野口・稻荷道・藤川であり、その中から現在約210数戸が会に属し、例祭や獅子舞奉納を始め年間に行われる様々な行事への参加や運営をしながら伝統文化護持の一端を担っています。

### 高麗神社氏子会

- 青壮年部・・・20歳位～50歳位までの青年男性で構成。特に例祭の日の夜には、付祭の運営等で活躍。
- 青壮年部OB会・・・青壮年部を卒業した男性で構成。若光祭の主幹や蕎麦作り会などの懇親も多数運営。
- 婦人部・・・氏子会に属する婦人で構成。夏の「民謡踊り」なども運営している。

1月

### 元旦祭

初詣 神社駐車場警備  
協力：青壮年部/青壮年部OB会



2月

### 祈年祭 / 氏子総代会

4月

### 桜祭



5月

### 高麗郡建郡記念神恩感謝祭 若光祭 主幹：青壮年部OB会

高麗神社・熊野神社・稲野辺神社 三社合同



若光祭 子ども神輿

6月

### 蕎麦作り会 主催：青壮年部OB会

8月

### 民謡踊り大会

主催：氏子会婦人部



昨年は雨天の為、休憩所で行いました。

バーベキュー慰労会  
青壮年部OB会

10月

### 例祭

### 獅子舞奉納

### 付け祭



獅子習い(獅子舞の練習)

11月

### 新嘗祭

12月

### ひもかわ作り会 主催：青壮年部OB会

その他、年により1泊や日帰りの旅行があります。



天皇后両陛下 行幸啓 平成29年9月20日(水)



題字：第56代  
高麗大記

平成30年2月18日  
発行：高麗神社  
No. 001

### 発行に寄せて

高麗神社宮司 高麗文康

社報「若き光」は先代高麗澄雄宮司が少壮の頃発行しましたが、継続する環境が整わず、数号で発行休止に至ってしまいました。昭和三十三年に父明津から宮司職を受け継いだ頃、澄雄は中学校教諭を兼職しており、二足の草鞋にはそれなりの負担もあったでしょう。その後、国の発展と氏子の変わらぬご協力のお蔭で社頭繁栄に至りました。社報「若き光」の復刊は十年以上前から念頭にありましたが、ここに至りようやく社務所の体制が整って復刊にこぎつけた次第です。先代の願いは、氏子崇敬者の皆様に当社を正しくお伝えすることであつたと思います。その願いを叶えるべく、今後努力を重ねてまいります。ご興味をお持ちの所からお読みいただければ幸いです。

処で、昨年九月二十日の天皇后両陛下下行幸啓は当社創建以来の慶事となりました。その後、天皇誕生日のお言葉の中で、当社御参拝について「多くの人に迎えられ、我が国と東アジアとの長い交流の歴史に思いを致しました。」とお述べになりました。陛下の大御心の内にお留めいただいたことは誠に名誉なことですが、奉迎の皆様の姿を印象深く感じのご様子に、小職は改めて長く当社を支えてきた氏子崇敬者への感謝の気持ちを持つに至りました。これからも当社の由緒を大切に、神社の護持運営に努めてまいります。

# 境内さんさく

高麗神社には、多くの文化人が訪れている。野田宇太郎氏もその一人である。神社裏手に建っている石碑には「家系圖」と題した詩が刻まれている。野田氏と神社の関係をよく知る者は今となっては、先代宮司夫人の敏江氏だけとなった。その伝えによると、先代の高麗澄雄が、國學院大學の同期生であった鎌田廣夫氏と再会した事に始まる。当時、鎌田氏は野田氏の執持ち(弟子)をしていた。高麗神社の話聞いた野田氏は、神社を訪れ高麗家住宅に一泊している。詩「家系圖」はその時の体験談が基となっており、昭和二十七年「文芸春秋」に発表されている。その後、野田氏は連載の「文学散歩」で神社を何度も訪れ、澄雄は「宇太さん」と呼ぶほど親交を深めていたという。高麗家住宅が国重文となり再建された際、その傍らに「家系圖」の詩碑建立を考えた澄雄は、石に刻む文字を野田氏に依頼し、自ら野田邸を訪ねた。碑文は、その時の頂いた野田氏直筆のものである。なお、詩の中に登場する青年は、若き日の澄雄である。ぜひ現地に足を運び、詩碑「家系圖」を味わって頂ければと思う。



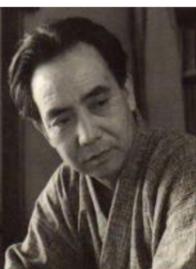
## 家系圖

### 野田宇太郎

ほろぼろの千二百餘年も前からのこの家系圖の階段をのぼりつめるとはるか朝鮮奥地の茫茫たる原野がみえ大地から押し寄せる唐の大軍東の海邊にひしめく新羅つひに七百年の歴史を無残に碎かれた高句麗の、うらぶれた敗亡の民に混つたとある日の相模の海に漂ひ着いたわたくしの祖先若光の憂ひの顔が今もまなかひに浮び出します。この錆びた一振りの高麗太刀この蟲づいた大般若經の古い寫本そして傳來の佛像や獅子面が亡命といふ鈍いかなしい音となつてはてしない海原にのこした水脈のやうな

わたくしの心の中に、今も時折鳴り響きます。それでも人気ないこの武蔵野に同じ思ひの人々が群れ集つた時ただひとすぢの名もない青い川だけは天日に希望のやうに光つてゐたのでありませう、夢うつつ大和ぐらしに慰められてやがて亡國の恨みも忘れたのでありませう。ほろぼろの千二百餘年も前からのこの家系圖の階段を降りてしまふとわたくしは何時もの高麗村の貧しい社の前に一人立つてゐるのです。空しいが、然し根強いあの高麗川の光りのやうなものが、わたくしには・・・と、青年は口をつぐみ、ひろげた家系圖を巻きはじめる。古代のやうな沈々とした月明の夜ふけこの部屋だけが灯りを點して息吐いてゐて山上には累々とした祖先の墓がねむつてゐる。

※家系圖は、御祭神若光の末裔、高麗家に伝わる系圖である。若光以来の当主事歴が記されている。



### 野田 宇太郎 (のだ うたろう 一九〇九〜一九八四)

明治四十二年十月、三井郡立石村大字松崎(現福岡県小郡市松崎)に生まれる。昭和八年第一詩集「北の部屋」を刊行。昭和十一年には、詩誌「糧」を創刊し、盛んな詩作活動を展開。「糧」には丸山豊、安西均など優れた詩人が集つた。昭和十七年に出版された「旅愁」は、詩集のベストセラーとなつた。また、優れた出版編集者でもあり文芸誌「文藝」の責任編集者として活躍した。

《野田宇太郎文学資料館ホームページ略歴紹介より》

# ちいき歴史散歩

くまの

## 熊野神社

日高市新堀字宮の前鎮座・宮司 高麗文康

由緒出典・「埼玉の神社」  
平成十年 発行 埼玉県神社庁

《御祭神・伊邪那美命・速玉男命・事解男命の熊野三神》

往古、紀州の熊野からこの地へ来て村を開いたと伝えられる新堀某にちなんでその名がつけられた新堀は、高麗川に沿う農業地帯の一角を占めている。当社は、新堀の中でも最も早く開かれたとされる本新堀のほぼ中央に、高麗川を背にして鎮座している。本殿は三間社流造りである。

本新堀には新堀を姓とする家が多いが、中でも「オキノイエ」の屋号を持つ新堀家は、村を開いた新堀某の直系の子孫で、近辺の新堀姓の家の総本家といわれ、当社はこの「オキノイエ」の氏神として創建された社であると口碑にある。明治期には、参道を使って、流鏝馬も行われていた。現在よりも広く、長かった参道を馬で駆け抜け、的を射る様子は子供心にも実に勇壮に映ったと古老は伝えている。

『風土記稿』には、当社は観音寺持ちの「熊野三神権現社」の名で記載されている。別当の観音寺は真言宗の寺院であったが、神仏分離によつて廃寺となった。その後、いつごろからか旧観音寺の堂宇は薬師堂と称されるようになり、現在に至っている。



### 祭事

(平成二十九年現在)

一月一日 元旦祭  
二月 北向稻荷神社 例祭  
五月 若光祭  
(三社合同子ども神輿 高麗神社にて)  
八月 天王様  
十月十八日 例祭

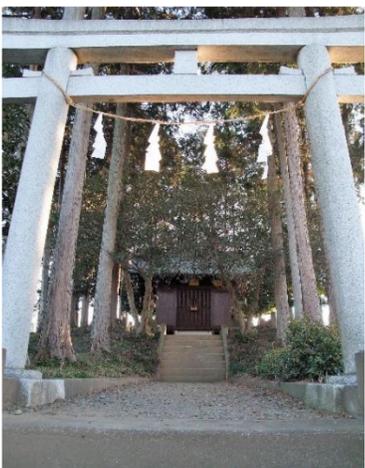
いな の べ

## 稲野辺神社

日高市新堀字原 鎮座・宮司 高麗文康

《御祭神・武御名方命 (たけみなかたのみこと)》

当社は、かつて「諏訪大明神」と号し、現在の新堀新田に鎮座していたが、正慶二年(一三三三)に新田義貞が鎌倉幕府攻撃のために出陣の途次、社前に休んだところ軍馬が大いに嘶き兵勢を盛んにしたことに伴い「嘶明神」又は「嘶諏訪明神」と号するようになり、いつしか、この「嘶き」が訛つて「稲野辺」となつたと、その由緒が明治四年本社拜殿建立棟札の裏面に記されている。嘶ヶ原は五百町にわたる広大な地で、馬草場として周囲の村々の入会地とされていたが、享保年中に当地の開発が行われ、その際当社の社地は狭まり、また嘶ヶ原は村の中心から離れているため、当社は氏子から粗末に扱われ、その由緒も忘れられがちになった。そこで当時の別当を務めていた建光寺の法印常相がこうした現状を憐れ、これに代わる社地を強く望んだが実現せず、その後数十年の歳月を経て宝暦一一年法印尊印の時、檀徒及び村民の努力により現在の社地に遷座された。



### 祭事

(平成二十九年現在)

一月一日 元旦祭  
五月 若光祭  
(三社合同子ども神輿 高麗神社にて)  
十月十八日 例祭

# 高麗神社を訪れた人々（皇族編）

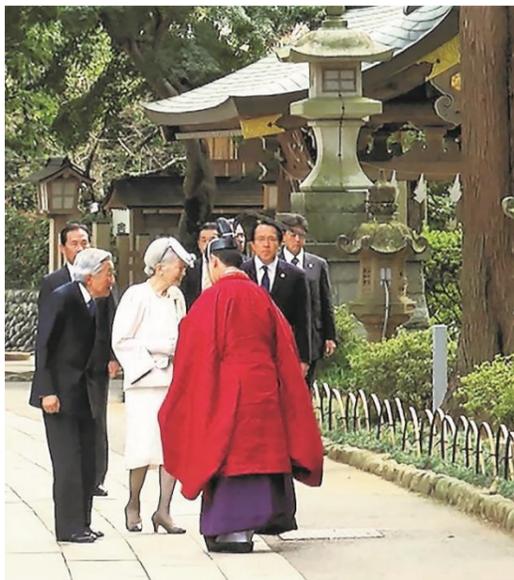
宮司 高麗文康

平成二十九年九月二十日午前十一時五十五分天皇皇后両陛下の御料車が当社に御着きになった。およそ三時間の御滞在とは言え、内容は分刻みで気を抜けない。小職は極度の緊張の為、一つの役目が終わり御前を退き、その時の様子を振り返っても、ほとんど覚えていなかった。すべてが終わり冷静になってから臆げな記憶を辿り、ようやく「今日あったこと」を認識したのである。そうした中でも両陛下の穏和な御様子は深く心に刻まれた。天皇陛下は参道の両脇に立つ献木標柱を一つ一つ確認するようにお読みになり、皇后陛下も応じるように皇族方の標柱をお読みになられた。「高円宮様、三笠宮様、李王様」その御声を漏れ伺いながら、小職は天皇陛下が李王様殿下同妃方子女殿下の御献木に御関心を示されていると感じ「昭和十七年に御参拝でございます」と御説明を申し上げた。

昭和十七年十一月二十一日李王様殿下同妃方子女殿下世子玖殿下は当社を御参拝あらせられた。根殿下は、大韓帝国王純宗の弟で、日韓併合後、日本の王公族として興された李王家の二代目の当主であった。妃殿下は皇族梨本宮家の長女としてお生まれになった。昭和天皇の御妃香淳皇太后陛下はいとこに当たる。両殿下には二人の御子があった。長男晋殿下は大正十年に御生まれになった。大正十一年十一月晋殿下を連れ朝鮮の地へ里帰りをされたが、東京へ戻る前夜晋殿下は急逝し朝鮮の地に葬られた。次男玖殿下が学習院大学初等科に在籍の昭和十六年、武蔵野鉄道の渉外活動が爽り、学習院大学初等科生徒の高麗村（当時）への遠足が実現した。翌年の李王家御来社への影響は不明だが、時間軸で示すこのようになる。

李王家御参拝時の様子を、かつて先代宮司高麗澄雄は次の様に語った。「両殿下がお見えになると聞き、お待ちしていたが御車から玖殿下がひよいと出てこられて、慌てて（お茶を載せる）高坏を調達に走ったんだ」この時は万事恙なく御参拝を終えて帰途にお着きになった。すると妃殿下は玖殿下を伴い、翌年再び御参拝になされた。澄雄は後に「この時妃殿下は長男晋殿下の供養のため、土地をお探してあった」と知った。妃殿下の悲願は、昭和二十九年に東京の多摩墓地に建立された供養地蔵で果たされた。それでも高麗村に親しみ、望みを抱いた貴人がいたことは事実である。

李王殿下同妃殿下の御献木の杉をわずかに見上げながら、天皇陛下は「高麗だから来たんだろうね」とつぶやかれた。



李王殿下  
李王妃方子女殿下  
御献木の杉



浩宮徳仁親王殿下 昭和51年10月2日



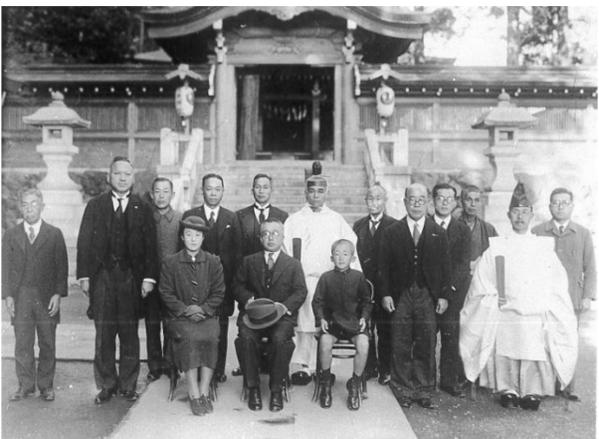
記念樹 桧



高円宮妃久子殿下 平成28年4月23日



御献木 桃



昌徳宮李王妃方子女殿下 昌徳宮李王殿下 昌徳宮李王世子玖殿下  
昭和17年11月21日



三笠宮崇仁親王殿下 昭和37年3月25日



御珠木 杉

## 光栄録

高麗氏系図 御覧

一、明治十六年四月 飯能町行在所において天覧に供す。  
一、大正元年十一月 川越町大本営において天覧に供す。  
御参拝

- 山階宮藤麿王殿下 大正九年十一月二十四日
- 伏見宮光子女王殿下 昭和十四年四月二十四日
- 久邇宮邦昭王殿下 同年十月二十七日
- 東久邇宮俊彦王殿下 右同日
- 賀陽宮文憲王殿下 昭和十七年十一月五日
- 昌徳宮李王世子玖殿下 右同日
- 伏見宮博明王殿下 右同日
- 李冲様 右同日
- 昌徳宮李王塚殿下 同年十一月二十一日
- 昌徳宮李王妃方子女王殿下 右同日
- 昌徳宮李王世子玖殿下 右同日
- 昌徳宮李王妃方子女王殿下 昭和十八年十二月五日
- 昌徳宮李王世子玖殿下 右同日
- 皇太后陛下 昭和二十三年六月三日 御遥拝
- 三笠宮崇仁親王殿下 昭和三十七年三月二十五日
- 浩宮徳仁親王殿下 昭和五十一年十月二日
- 高円宮妃久子殿下 平成二十八年四月二十三日
- 天皇陛下 平成二十九年九月二十日
- 皇后陛下 右同日

# 人生儀礼 案内

## 命名奉告

新生児のお名前を神様に奉告し、永年にわたる神様とのご縁を祈念いたします。

## 七五三詣

子どもの成長に感謝し、これからの無事を祈って神様にお参りします。3歳は「髪置」と呼ぶ男女共のお祝い、5歳は男子の「袴着」、7歳は女子の「帯解」のお祝いとなります。

## 成人奉告

社会的に大人として認められる成人の年には、無事成長したことを感謝し、更に責任ある行動を神様に誓いましょう。

## 厄除け

人生の大きな転機を迎える年回りが厄年です。神様のご加護をいただき無事に一年を過ごせるよう祈りましょう。

## 初宮詣

赤ちゃんが初めて神社にお参りするのが初宮詣。誕生後、30日から100日前後にお参りし、健やかな成長と幸せを祈ります。

## 入学・卒業奉告

学校生活の始まりと終了を神様に奉告し、新たに迎える環境で充実した生活を送れるよう祈りましょう。

## 結婚式

神様のはからいにより、一つの縁が結ばれた事に感謝し、お互いに尊敬し力を合わせて歩んで行くことを神様に誓います。

## 還暦 福寿詣

日本には長寿の祝いがあります。満60歳は干支が生まれた年に戻ることから「還暦」と呼ばれます。70古稀・77喜寿・80傘寿・88米寿・90卒寿・99白寿・100上寿



祈願随時受付 毎日8:30~17:00 (12/31は、14:00まで)

※ご予約の必要はありません。

初宮詣・七五三・ランドセルのお祓い(3月下旬)

人生儀礼各種・商売繁昌・厄除け・方位除け・車お祓い

高麗神社々務所 ☎ 042-989-1403



TBS ラジオ番組終了後の記念写真  
前列右から2番目が井上辰雄氏子会長

**編集後記** 担当・保々  
平成二十八年、二十九年は、重要な節目にあたり様々な出来事があった。氏子会長であった井上辰雄さんには、例年にも増してご尽力を賜った。そのような折、昨年七月井上さんの訃報が届いた。突然の事であった。その数ヶ月前、毒蝮三太夫さんのTBSラジオの生放送が神社で行なわれた。観客集めに力を注いだ井上会長も神社関係者として、その場に参加していた。放送終了後、持ち前のトークで観客へのファンサービスを行い、場を沸かせた後、毒蝮さんは不意に神社関係者へそのトークをバトンタッチした。私は場の空気に堪えきれず、何も言わずに退いてしまった。その後を引き継いだのが、井上会長であった。井上さんは、尻込みせず会場に集った皆さんに丁寧な御礼の挨拶を述べ、堂々とした姿でその場を執り収めた。私はその姿を絶対に忘れない。井上辰雄 氏子会長へ感謝を捧げ、ご冥福をお祈りする。

## \*厄祓いについて\*

神社本庁教学研究所監修  
書籍「神社のいろは」  
を参考に解説しています。

厄年の年齢は、人の一生の中でも、体力的、家庭環境的、あるいは対社会的にそれぞれ転機を迎える時でもあり、災厄が起こりやすい時期と言われています。

本来、厄年は長寿を祝う還暦(六十一歳)や古稀(七十歳)などの年祝いと同じく、晴れの年齢と考えられています。古くは厄年を迎えることで、地域社会において一定の地位となることを意味し、祭礼を取り仕切る宮座(みやざ)への加入や神輿担ぎなど、神事に多く関わるようになります。このため心身を清浄に保ち、言動を慎む物忌(ものいみ)に服する必要があったのです。厄年の「厄」は、神様にお仕えする神役の「役」であるといわれるのも、こうした理由によるものです。

現在では、災難が多く生じる面が強調され、行動を慎む感覚が強くなりましたが、七五三や成人式、年祝いなどとともに、人生における通過儀礼として、大切に考えられていることには変わりありません。厄年に当たっては、神様の御加護を賜り、より良く一年を過ごせるよう神社にお参りいたします。年齢は「数え年」でかぞえられ、地域によって多少異なるところもありますが、男性が二十五・四十二・六十一歳、女性が十九・三十三・三十七歳などを

男性の厄年 (数え年)		
前 厄	本 厄	後 厄
24歳	25歳	26歳
41歳	42歳	43歳
60歳	61歳	62歳

女性の厄年 (数え年)		
前 厄	本 厄	後 厄
18歳	19歳	20歳
31歳	33歳	34歳
36歳	37歳	38歳

いい、この年齢の前後を前厄・後厄と称します。中でも男性・四十二歳と女性・三十三歳を大厄として特に意識することが多いようです。数え年では、新年を迎える正月に新たに年齢を一つ重ねますので、この年齢が変わったときに厄除けをおこなうことが多いようですが、これに関係なく誕生日など良き日柄を選び、参拝をする場合もあります。また氏神社の祭礼にあわせて、厄年の人々が神事を奉仕し厄祓いをする例も各地にあります。

古来より伝わる先人の教えとして厄年を真摯(しんしん)に受けとめ、神様の御加護のもと成長の階段を着実に上がり、実りある節目の年にしましょう。